（令和３年１月試験研究業務月報）

試験研究課題：磯根資源総合管理技術開発研究

研　究

宮津湾のナマコ資源管理による効果を調査

宮津湾のナマコ漁業者は、平成24年頃から漁獲量やサイズ規制（300 g以下リリース）などの自主的な資源管理に取り組んでいます。当センターでは、その効果や翌年の資源状況を予測するため、漁業者及び京都大学と共同で、漁期前後のナマコ資源状況を調査しています。自主的管理の取組により、平成31年までは順調に漁獲量・金額を伸ばしてきましたが、平成31年の漁期後に実施した調査結果からは、翌漁期にそれまでと同じ獲り方をしてしまうと資源状態が悪化することが予測されました※。海洋センターは予測資源量を元に令和2年1月からの漁期には総漁獲量を10トンに制限するよう漁業者に提案、漁業者もそれに納得し、宮津湾で初めてとなる総量規制の取組を実践することができました。

今年のナマコ漁解禁直前の1月21日にナマコ資源状況を調査したところ、昨年の同時期の1.2倍程度に資源が増加していることが推定されました。昨年の総量規制が奏功したものと考えられます。今春の漁期後に行う調査の結果も併せて詳細な解析を行い、来年以降もナマコ漁業が持続的に発展していけるよう科学的根拠に基づく管理手法を提案し、漁業者を支援していきます。

日の出とともに調査を開始

採集されたナマコ

※　これまで漁獲の影響を受けたことのない若齢群が少なかったことから、資源減少の要因は漁獲によるものではなく、産まれたときの水温などの環境が好適ではなかったことが原因と考えられます。

海　洋　セ　ン　タ　ー